

1 学校教育目標
<p>本黌建学の精神である三綱領を根幹とし、生徒の輝く未来に向け、節義を重んじ、人格や品性を高め、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。生徒を育成するに当たっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 他者への思いやりを大切にし、社会に貢献する生徒の育成 2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成 3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成」 <p>を目指す。</p>

2 本年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会に貢献できる生徒（グローバルリーダー）の育成 (2) 生徒指導の充実 (3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底 (4) 学力の向上 (5) 進路指導の強化 (6) S G H 指定校としての取り組み推進

※下の自己評価総括表内の「評価」項目は、4点満点である。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し、自らその実践に励む生徒を育成する。	・学校全体で取り組み、様々な教育活動の場で折に触れ意識させる。	3.2	集会等で唱和することで意識を高められたが、深い理解につなげる活動は不足気味である。
	S G H 事業の推進	グローバル人材の育成	S G H 事業をさらに魅力あるものに工夫する。	・ S G 課会、企画委員会が立案し、学校全体で取り組む。	2.9	全体で取り組む体制は出来てきた。次年度以降の計画の具体化を推進したい。
	学校の活性化	学校行事の工夫・改善	反省を生かし、取捨選択を意識して新たな内容を取り入れる。	・運営委員会を多く実施し、十分な審議の中で工夫する。 ・今年度の反省を年度内に改善する体制を構築する。	3.0	運営委員会の回数や、反省を年度内に改善する体制の構築はできた。これらを学校の活性化につなげたい。
	職員の資質向上	校内研修の充実	各学期複数回の校内研修を通じて職員の資質向上を図る。	・各々が立案し、当面の課題に対し学校全体で取り組む。	3.1	校内研修の時間は余りとれない中で、資質向上の意識付けをさらに図りたい。
	安全管理	施設・設備の保守・点検	危険箇所には迅速に対応する。	・報告連絡相談を確実に行う。	3.2	安全点検等での修理・改善の要望に対して、迅速な対応が出来た。
	言語活動の充実	グローバル社会をリードする人材育成のための言語活動の充実	論理的思考力、課題解決力養成のための言語活動を推進し、授業改善にもつなげる。	・各学年で論理的思考力を伸ばす論文指導を推進する。 ・各教科で言語活動の充実を図り、授業改善につなげる。	2.9	論理的思考力を伸ばす意識は広がっているが、さらに計画的に学年や教科を連動させて取り組む必要がある。

学 力 向 上	基礎学力の 充実	学習時間の 確保	平日2時間以上 の家庭学習時間 を確保させる。	・帰宅時間・睡眠時 間等、生活時間の見 直しをさせる。 ・家庭学習時間調査 の結果を踏まえ主 体的に学習に取り 組めるよう指導を 強化する。	2.7	家庭学習時間は学年 間で差があるもの のほぼ達成できた。帰 宅時間・睡眠時間の 見直しについては各 部活動、健康教育部 等との連携が必要で ある。家庭学習時間 調査(6月・11月・1月 実施)の結果は、各学 年や担任レベルでの 活用は活発である が、教科指導への活 用は不十分である。
	わかる授業 ・考える授業 の創造	教師の指導 力の向上	生徒の学習意欲 を高める指導を 実践する。	・教科会や公開授業 を充実し、生徒が主 体的に考える授業 展開の工夫、教材の 研究に努め、生徒に わかる授業、実力を つける授業の実践 を行う。 ・授業評価アンケー トを実施し、生徒の 実態・要望などを把 握し活用する体制 を作る。	2.9	教科会では教材研究 や入試問題検討など 各教科で工夫し実施 できた。公開授業(6 月・11月実施)は、そ の目的を明確にして 参加を促す必要があ る。授業評価アンケ ートは、教師が自身 を振り返り授業改善 等に活用しやすい工 夫が必要である。
キ ャ リ ア 教 育 (進 路 指 導	生徒の進路 目標の実現	生徒の進路 意識高揚に 向けた取組 の実践	講演会、出張講義 などの充実とと もに丁寧な個人 指導を行う。	・継続的に刺激を与 え、将来のキャリア を主体的に考え、自 らの可能性にチャ レンジする生徒を 育む。 ・面接指導を充実し 個を理解し、信頼関 係の構築と適切な 進路指導に繋げる。	3.2	前年度を踏襲するだ けでなく、改善を加 え、効果的な取組と なるように努めた。 精選と質の向上に努 めたうえで、より生 徒の主体的な活動と なるように考えてい きたい。
		教師の教科 指導力の向 上	難関大入試に対 応しうる教科指 導力をつけ、魅力 的な授業・課外を 実践する。	・教科会と連携し、 教科指導力向上と 継承に努める。 ・校内模試の更なる 充実を図り、結果を 活用する。	3.0	外部研修への参加者 は増えている。日常 の教育活動の中での 継続的な取組をさら に推進したい。
		教師の進路 指導力の向 上	3年間を見通し た進路指導の実 践力をつける。	・校内での進路に関 する職員研修や学 力検討会、進路検討 会を実施する。	3.1	定例のものだけでな く、必要に応じて適 時検討会や研修会を 実施し、成果をあげ た。

生徒指導	济々覺生としての矜持を持たせる指導	徳育の推進	「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生徒への声かけや講話、集会等で心の育成を図っていく。 ・教育相談部と連携して、いじめを未然に防ぐ取組を行う。 	3.1	各学期の始業式、終業式等で心の教育を実践してきた。声かけ指導も毎日行った。いじめ問題は皆無ではない。
		基本的な生活習慣と自己規律の確立	時間の厳守や端正な服装の徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で各学期登校指導を実施する。 ・共通理解のもとに整容検査を行う。 	3.1	毎月の生活目標を設定したので、共通認識のもと指導できた。登校指導も全職員で行った。
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	社会のルールや規則等を遵守する指導を行うとともに防犯意識を高める取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通講話・実技講習会を実施する。 ・二重ロックの励行を生徒交通委員会で行う。 	2.9	登校指導、三校合同登校指導、交通講話などを通じて、生徒の安全意識は高まった。しかし、交通事故件数は昨年より増加した。
人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	知識的側面からの取組	人権教育における学習指導の工夫改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に学年研修を実施し人権意識の向上に努める。 ・対外的な研修会への生徒や職員の参加を促す。 	3.0	2年生では水俣病患者家族の方に講話をいただいた。人権教育の職員研修では、グループ討議を行い人権感覚の醸成に努めた。
		価値的・態度的側面からの取組	生徒一人一人の心の内面に働きかけるような指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談を充実させ生徒が悩みを相談しやすい環境を作る。 ・生徒理解のための職員研修を定期的実施する。 ・人権教育推進委員会を適宜実施する。 	3.3	生徒理解のための職員研修を年に2回実施した。スクールカウンセラーによる職員への講話を行った。教育相談部会を定期的に行い生徒の状況把握と対応について共通理解に努めた。
	命を大切に育む指導	教材の精選と職員の共通理解	関連する教科・領域等の学習を組み合わせる単元を構成し、多様な指導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも計画的に指導を行う。 ・感想の集約などから指導の振り返りを行い、次の指導につなげる。 	3.0	各教科の様々な場面で行った。ストレス対処教育のエンカウンターの内容も今後検討していきたい。

いじめの防止等	いじめの未然防止	積極的な啓発活動の実施	いじめをしない・させない・許さない態度を堅持させる指導を徹底する。	・エンカウンターを実施しストレス対処教育を推進する。 ・生徒会を中心にした啓発活動を行う。 ・いじめ防止対策委員会を各学期ごとに行い、生徒の状況の把握と対応に努める。	3.2	1年生を対象に宿泊研修時にストレス対処教育のエンカウンターを行った。SNS講演会を全校生徒対象に行った。教育相談部から通信を出し、生徒にSNS使用について注意喚起を促した。
	いじめへの迅速な対応	いじめの早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合、被害・加害双方の生徒に速やかに対応、指導を行う。	・いじめ人権アンケートを実施し、実態の把握と早期発見に努める。 ・いじめ対策委員会を開催し問題解決に尽力する。 ・情報を共有し、事後も指導を継続する。	3.3	心のアンケートは課題のある生徒に対しては学年を中心に速やかに対応することができた。しかし、いじめ問題は皆無ではないので今後も情報共有ができるように努めていきたい。
健康教育	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	生徒が自身の健康状態を把握し、健康で安全な生活を送れるよう指導を行う。	・保健委員会の「保健だより」の発行、掲示物の工夫や文化祭での全校への啓発を実施する。	3.3	保健委員が健康管理や傷病予防の情報を積極的に啓発することができた。
			震災後の生徒の心身の健康管理を行う。	・心と体の健康調査や保健室来室状況から実態把握に努め、職員間で情報を共有し対応する。	3.3	健康調査や保健室来室状況から今年度の生徒の実態を把握することができ、課題のある生徒に関して職員間で情報を共有できた。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒、職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	・全職員による月1度の安全点検を行う。 ・美化委員による校内環境の整備を行う。	3.2	安全点検後の修理・改善の要望に対して、迅速な対応ができた。美化委員によるゴミ分別の呼びかけ活動の結果、ある程度の意識改革が見られた。
図書館教育	読書習慣の確立	読書指導の推進	情報提供、時間の設定により読書意欲を高め、読書の習慣を身に付けさせる。	・「図書館便り」「麒麟児」「碧落」の発行、生徒図書委員会の広報活動を活発に行う。 ・年に2回、「朝の読書」週間を実施する。	3.3	生徒図書委員の活発な広報活動、2年生の探究論文作成もあり、昨年度よりも図書館の利用・貸し出しが増えた。「朝の読書」は継続したい。

	学習活動支援の充実	蔵書や設備の充実	資料の充実と環境整備をすすめる。	・館内のレイアウトの工夫。 ・各教科との連携を図り、必要な資料を収集する。	3.3	各教科から情報をもらい、より授業と連動した館内展示を工夫する。
保護者との連携	同心会（PTA）と学校の積極的な連携・協力	連携を深め、円滑な校務運営を行うための情報提供	保護者への情報提供に努め、本校教育への理解と協力を得る。	・学校HP・同心会HPと会報（同心）の充実と一斉メールの活用をする。	3.3	HP・会報・一斉メールの活用は徐々に改善定着されてきた。更新回数も増やすことができた。
		PTA活動の活性化	同心会総会や学校行事等への参加者を増やし、総会（報告会を合わせて）の出席率を80%以上とする。	・総会や行事の案内など迅速に連絡を行う。 ・総会の効率的な進行や運営を企画する。	3.2	総会などの行事の運営は滞りなくできた。出席率も昨年以上に増加した。同心会HPで行事の紹介などを推進する。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会委員との連携・協力	連携を深め、防災・減災を図るための情報共有	学校運営協議会委員と学校との情報共有に努め、理解と協力を得る。	・防災型コミュニティスクールの円滑な運用を図る。 ・地域と連携した防災訓練を実施する。	2.9	避難訓練時に学校運営協議会委員に来校してもらって協議することができた。連絡を密にし、防災マニュアルの避難所運営等で、さらなる情報の共有と協力体制を模索する。

4 学校関係者評価	
1 自己評価について	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組と生徒の活動の様子がよくわかった。職員は人権教育やいじめ防止への取組が向上していること、生徒からは学校行事が充実していること、保護者からは入学させて良かったという信頼感の高まりが数値からもわかった。 ・職員がよく頑張っていることに頭が下がる。職員の熱意が保護者にも伝わるよう、この評価表やアンケート結果だけではなく、各部が作成している評価シートも公表して良いのではないかと感じる。その方が職員が感じている課題や目標が保護者にも明確となり子供への声かけ等にも活かせる。 ・家庭学習において、2年生が1年生より少ないことが気になる。時間数を生徒達に積極的に公表して欲しい。 ・個人面談等、生徒一人一人と丁寧に向き合うことを実践されていることは評価できる。 ・三綱領の精神については、内容は難しいが生徒達に十分に継承されていると感じている。 ・SGの発表会で生徒の生き生きとした英語活用の発表を見て、取組の成果が見られた。 ・グローバルリーダーの育成について、現状はやや物足りなく、世界の変化のスピードが速い今、さらに幅広く例えば講演を増やす等の取組を仕掛ける必要があると感じる。 ・図書館での読書傾向の分析があれば、生徒達の姿がある面で見えてくるのではないかと感じた。 ・多くの取組をされているが、職員だけが抱え込むのではなく保護者や外部専門家等との連携で啓発活動等を行うこともできるのではないかと感じる。 ・もっと家庭や保護者に役割分担を求めることを探っても良いのではないかと感じる。 	
2 次年度への課題・改善への方向性について	
<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る取組、すなわち交通安全指導やいじめ防止への取組は今後も続け効果的な方法を模索していかねばならない。 ・生徒全員が参加する、興味関心が高まるわかる授業に関して、主体的対話的で深い学びをさらに追求していく必要がある。 ・生徒指導の徹底と、部活動と学習の両立を踏まえた進路指導、効率的な学習法などの研究をさらにお願いしたい。 ・高大連携や新学習指導要領に向けた改善計画や実践の積み重ねが必要である。 ・不登校の問題などスクールカウンセラーの充実がさらに必要である。 	

5 総合評価

職員による4段階の評価に基づいて示した各評価項目に対する評価結果の平均は、全て「B(3)」となり、違いが見えにくいので少数点以下一位までで比較する。平均すると3.1点であり、全体的にはおおむね達成できていると判断できる。各項目の評価を比較すると、「基礎学力の充実」の項目が最も低い。この項目は評価の観点として家庭学習時間の充実を目指したものだが、職員の働きかけはあったが思うような効果が得られていなかったためではないかと考えられる。また、「SGH事業の推進」「言語活動の充実」「よくわかる授業創造」「交通規則遵守」「学校運営協議会委員との連携」の項目が2点台で、やや低い。これらは取組が一部の職員に偏っており学校全体の取組となっていない、という職員の意識の表れと考えている。各人が当事者意識を持って学校全体として取組を推進する必要がある。

逆に、「生徒理解のための指導」「いじめの早期防止」「生徒による健康管理」「震災後の生徒の心身の健康管理」「読書指導」「保護者との関係情報提供」のポイントが3.3と良かったが、職員全体が意識して取り組んでいる表れと捉えることができる。

昨年度の評価のポイントと比較すると、全体的には昨年と同様の傾向だが「基礎学力の充実」「わかる授業創造」が最もポイントが下がった。家庭学習時間を確保することへの呼びかけや授業改善に関して、生徒に対して効果的に働きかけられていないのではないかという反省をもとに、家庭学習の重要性を理解させる方法や授業改善のあり方について更に工夫を重ねていかねばならない。

6 次年度への課題・改善方策

次年度はSGH事業5年目で、新入生はコースを設定せずに学年全体の取組となるよう事業設計を変更して臨む。このことがグローバルリーダーの育成と同時に授業改善や学力向上、進路実績にもつながり、学校の活性化に寄与する取組となるよう、仕掛けと工夫が必要である。また、その他の日々の授業において、言語活動の充実や主体的・対話的で深い学び等の工夫を重ね、基礎学力を身につけさせると同時に、新形態の大学入試にも対応できる学力をつけさせねばならない。これらの教育活動の根幹にある、人間性を磨くためのあいさつや清掃活動など、足下の生徒指導、学習指導もまた徹底していかねばならない。その結果として、社会に貢献できるリーダー育成につながる教育活動としたい。これまで培ってきた本校の進路指導や生徒指導の体制を働き方改革の視点からも再度見つめ直し、各教科を通じて個々の職員の授業改善の意識を高め、普段の授業のみならず考査等も含めて、言語活動を積極的に取り入れ、評価方法を再構築し、職員全体で当事者意識を持ってこれらの教育活動を推進していくことを、改善の方策としたい。